令和 3 年度 いなべ市総合戦略事業進捗状況報告書（概要）計画期間：令和2年度から令和 7 年度まで

国の政策分野1

地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

⇒ しごと創生プロジェクト

数値目標：工業統計での従業者数及び事業所数の増加

数値目標名	単位	実績値	目標値						達成率（%）
			実績値						
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
従業員数（工業統計）	人	19,097	18,400	18,450	18,500	18,550	18,600	18,650	–
			19,501	–					
事業所数（工業統計）	社	165	172	173	174	175	176	177	–
			179	–					

令和2年調査をもって工業統計が廃止されたため、実績値の確認ができませんでした。

来年度は新しい指標を設定します。

判定	A	B	C	D	不能
指標数	4	1	1	2	1

しごと創生プロジェクトは、9 事業中 5 事業がA及びB判定で概ね順調にプロジェクトを進めることができました。

C判定の「審議会等への女性登用率」は、広報誌による啓発や、各部局に対して所管する審議会等への女性委員の積極的な登用を促しましたが、あまり拡充されませんでした。

D判定の「企業立地件数」は、将来を見据えた企業の新規進出や拡張の相談はありましたが、立地協定の締結には至りませんでした。東海環状自動車道の開通をチャンスととらえ、積極的に企業誘致に取り組んでいきます。「創業相談件数」については、創業支援等事業計画に基づき、市内で操業を目指す市民に向け、創業相談窓口を設置し、いなべ市商工会等と連携を密にして相談者にとって利便性の高い相談窓口を構築しましたが、目標を達成できませんでした。

国の政策分野2

地方への新しい人の流れをつくる

⇒ であい創生プロジェクト

数値目標：観光集客数の増加

数値目標名	単位	実績値	目標値						達成率（%）
			実績値						
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
観光集客数	人	410,764	453,000	455,000	457,000	459,000	461,000	463,000	149.7
			660,359	681,328					

新型コロナウイルス感染症防止対策により「いなべ梅まつり」、「いなべ市ぼたんまつり」、「ツアー・オブ・ジャパンいなべステージ」及び「あげきのおひなさん」は一昨年度と同様に中止しました。

集客数の集計に計上された「にぎわいの森」が昨年度も集客を伸ばしました。他の観光地については、一昨年度から横ばいとなっています。

（にぎわいの森約374千人、その他約307千人）

判定	A	B	C	D	不能
指標数	4	1	2	3	1

であい創生プロジェクトは、11事業中5事業がA及びB判定で概ね順調にプロジェクトを進めることができました。

C判定の「北勢線利用者数」、「阿下喜温泉の集客数」、D判定の「福祉バス利用者数」、「農業公園の集客数」は、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響による移動自粛、営業時間の短縮やイベントの中止などにより目標を達成することができませんでした。

D判定の「移住支援事業補助金を活用して移住した世帯数」は、東京近郊から市内への移住費用を補助する事業ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により例年開催している相談会（イベント）でのPRが出来なかったこともあり、申し込みはありませんでした。

国の政策分野3

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

⇒ みらい創生プロジェクト

数値目標：合計特殊出生率の改善及び 15 歳から 49 歳の女性人口の増加

数値目標名	単位	実績値	目標値						達成率（%）
			実績値						
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
合計特殊出生率※	%	1.39	1.46	1.46	1.46	1.46	1.46	1.46	91.8
			1.22	1.34					
15 歳～49 歳の女性の人数（9 月末の住基人口）	人	8,735	8,700	8,750	8,800	8,850	8,900	8,950	96.4
			8,633	8,435					

※前年度の 10 月 1 日から当該年度の 9 月 30 日までの期間で算出（例：R3＝R2.10.1～R3.9.30）

合計特殊出生率については、出生数が275人から285人に増加し、15歳から49歳の女性の数が前年度から減少となったことから、0.12ポイントの上昇となりました。

女性の人数は、50歳と15歳の差が約100人、また20代の減少が約100人となっています。就学、就労、結婚の機会による転出が考えられます。

判定	A	B	C	D	不能
指標数	6	5	2	2	0

みらい創生プロジェクトは、15 事業中11事業がA及びB判定で順調にプロジェクトを進めることができました。

C判定の「青少年育成市民会議諸事業への市民参加者数」、D判定の「子育て支援センター利用者数」は、いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止のために参加者の制限や活動自粛を行ったことより目標を達成することができませんでした。

C判定の「全国学力学習調査において『将来の夢や目標を持っています』と答えている中学 3 年生の割合」は、ゲストティーチャーの招へいを行い、生き方について考え方を深めましたが、コロナ禍で授業回数が減少したことで目標を達成できませんでした。

D判定の「個別療育・小集団療育を受ける子どもの数」は、地域活性化起業人事業を活用し、委託事業の担い手である療育支援専門員の現任教育により質の向上を図るとともに、就学前の療育支援体制の見直しにより対象を整理するなどの課題整理や、業務の効率化など再構築作業を行いましたが、目標を達成できませんでした。

国の政策分野4

時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

⇒ くらし創生プロジェクト

数値目標：市民満足調査におけるまちへの愛着度アップ

数値目標名	単位	実績値	目標値						達成率（%）
			実績値						
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
まちへの愛着度（総合計画の市民満足度調査で「愛着を感じる」と回答した方の割合）	%	63.1	–	–	–	–	70.0	–	–
			–	–	–	–			

「まちへの愛着度」調査は、令和6年度予定の第3次いなべ市総合計画策定の際に実施します。

判定	A	B	C	D	不能
指標数	6	7	0	1	0

くらし創生プロジェクトは、14 事業中12事業がA及びB判定で順調にプロジェクトを進めることができました。

D判定の「防災講演受講者数」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から防災講演会の開催を自粛する自治会が多く、実施数及び受講者数が減少しました。コロナ禍でも講演会が開催できるよう、動画配信などで多様化を図っています。

審議会委員からの意見

●努力していただいている部分もかなりある。
私は複数の自治体でこのようなことに関わらせていただいているが、（いなべ市が）非常に頑張っていただいていると感じている。

●指標「認知症サポーター数」について、すごく感動した。高齢化に伴いサポートを必要とする方は必ずいるし、増加していく。そこで講座を工夫してウェブであったり、子供たちに対してキッズサポーター講座として開いてもらった。お年寄りの方と触れ合う機会の少なくなった子供にも理解してもらったりできて、素晴らしいことと感じました。目標値変更についてもかけ離れたものでなく、実績において少し増やしていこうという説明は納得ができた。

●目標値について各部署で設定されているが、コロナ禍で大幅に減少してしまう実績については、現状を見てやり方を変えながら目標の見直しをしていただくと、皆さんの努力が判定に反映されるのではないでしょうか。

●ウィズコロナとして、目標の見直しも必要と考える。できることは変わっていく。
数値だけが目標ではないと思うので、例えば翌年度はこんな目標とか、目標自体の見直しがあっても構わないと考える。
目標と現状がかけ離れている指標については、再協議（見直し）も必要である。

※判定「A：100%以上：進んだ」、「B：85%以上～100%未満：ある程度進んだ」、「C：70%以上～85%未満：あまり進まなかった」、「D：70%未満：進まなかった」、「判定不能：事業が終了したもの又は、判定ができないもの」